

【「1分で理解できる解答の書き方」と口頭試験との関係】

1. 1分で理解できる解答の書き方

1分で理解できる解答の書き方とは、「解答の要点を解答の冒頭に書き、解答の要点の説明（要点の説明）をその後を書くこと」です^{注1)}。

例えば、「在宅勤務の問題を1つ述べよ」のような問題があったします。1分で理解できる解答の書き方で解答を書くと以下ようになります。ここで、ゴシック体で書いてある内容が「解答の要点」、また、明朝体で書いてある内容が「要点の説明」です。

在宅勤務の問題は、情報漏洩の危険性が出てくることである。会社内で仕事を行う場合には、社内のセキュリティによって会社内にある情報が外部に流出する可能性は小さい。しかし、在宅勤務になると、自宅で使うパソコンのセキュリティが会社のセキュリティに比べて脆弱になる。そのため、在宅勤務によって情報が外部に流出する危険性が出てくる。

このように解答すると試験官に解答が明確に伝わります。

注1)：「技術士試験対策・ダウンロードコーナー」の中の『“1分で理解できる解答”の書き方』の概要』の資料を参照のこと

2. 口頭試験での回答方法

口頭試験で面接官に回答を明確に伝える方法として、質問に対する回答の要点を冒頭に話し、その説明をその後で話す方法があります。

例えば、以下のような質問を受けたとします。

《受験の動機を説明してください》

この質問に対して以下のように回答すると試験官に受験の動機が明確に伝わります。

「技術士を取得して自然災害対策の業務に従事することです。日本は地震や水害などが多発し多くの人命や財産が失われています。技術士として自然災害対策の業務に従事し自然災害に伴うこれらの被害を低減させたいです」

受験の動機が明確に伝わるのは、回答の要点（技術士を取得して自然災害対策の業務に従事

すること)を冒頭に話し、これに関する説明をその後に話すからです。このように回答すると面接官に受験の動機が明確に伝わります。

3. 「1分で理解できる解答の書き方」と口頭試験との関係

「1分で理解できる解答の書き方」と口頭試験との関係は、解答(回答)を試験官(面接官)に明確に伝える方法がどちらも同じだということです。「1分で理解できる解答の書き方」でも口頭試験でも、解答(回答)を明確に伝えるための方法は、解答(回答)の要点を冒頭に書き(話し)、その説明をその後に書く(話す)ことです。このように解答する(回答する)と試験官(面接官)に解答内容(回答内容)が明確に伝わります。

解答(回答)が明確に伝わるのは、結論を冒頭に書き(話し)その理由をその後に書く(話す)ような形式で解答(回答)しているからです。

「1分で理解できる解答の書き方」と口頭試験との関係を考えると、「1分で理解できる解答の書き方」で解答を書くとその内容が試験官に明確に伝わるということがわかると思います。

解答が明確に伝わることで、試験官から、「結局、この解答では何が言いたいのだろう」という評価を受けません。

以 上